

第3次町田市 環境マスタープラン概要



望ましい環境像

みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ

環境資源部 環境政策課

本日の次第

- ▶ 1 環境マスタープランとは？
- ▶ 2 計画の位置付け
- ▶ 3 計画期間
- ▶ 4 計画の対象とする範囲
- ▶ 5 望ましい環境像
- ▶ 6 計画の基本構成
- ▶ 7 基本目標及び施策と成果指標
- ▶ 8 重点プロジェクト
- ▶ 9 「町田市ゼロカーボンシティ宣言」

1 環境マスタープランとは？

- ・ **2000年に「町田市環境基本条例」を制定**

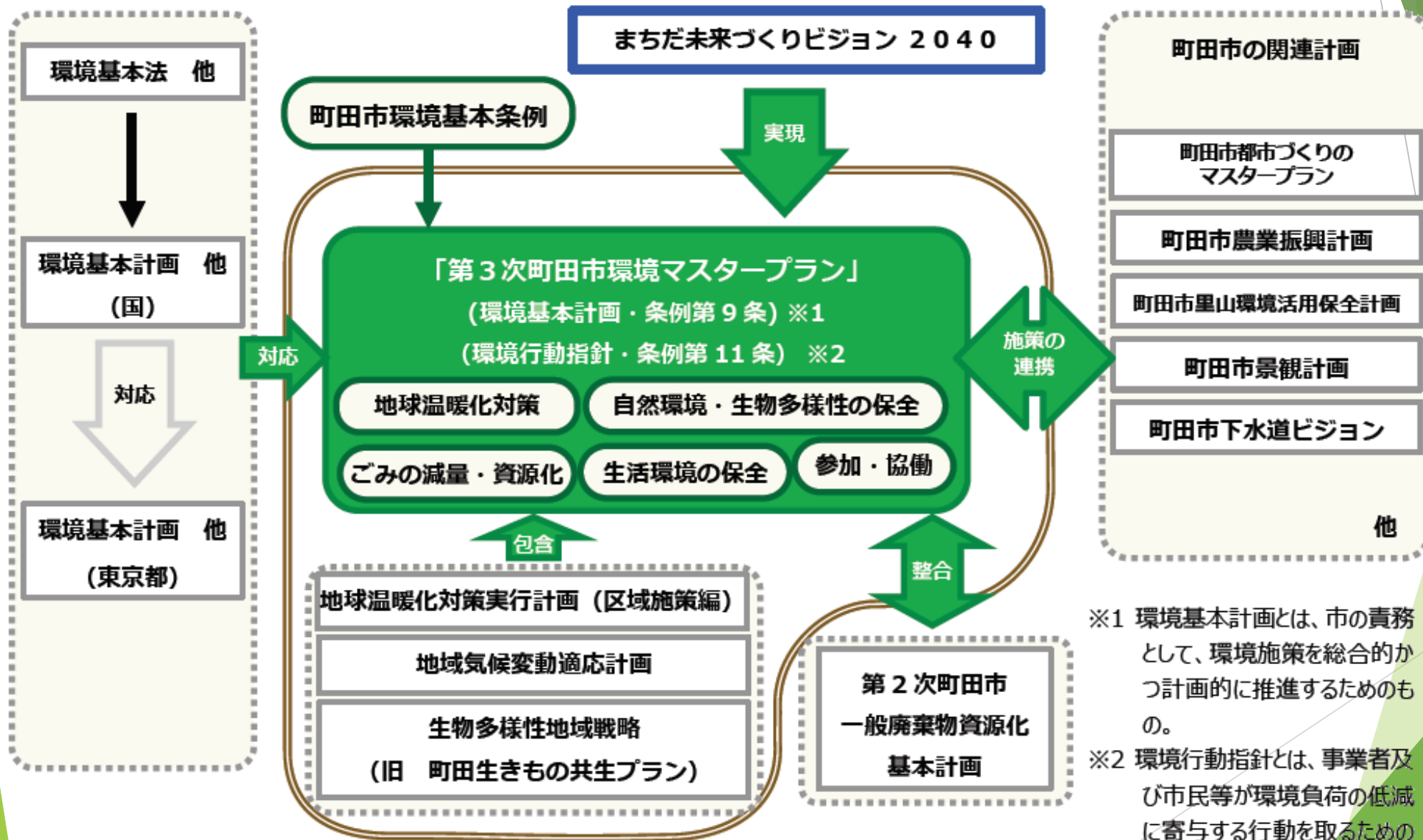
良好な環境を保全、回復及び創造するとともに、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の実現を目指して制定しました。

- ・ **2002年に「町田市環境マスタープラン」、2012年に「第2次町田市環境マスタープラン」を策定**

この計画は町田市環境基本条例第9条の環境基本計画及び第11条の環境行動指針に基づき策定。望ましい環境像を定め、その実現に向けて分野ごとに目標を立て、施策を策定して総合的に推進するための計画です。

- ・ **2022年3月に「第3次町田市環境マスタープラン」を策定**

2 計画の位置付け



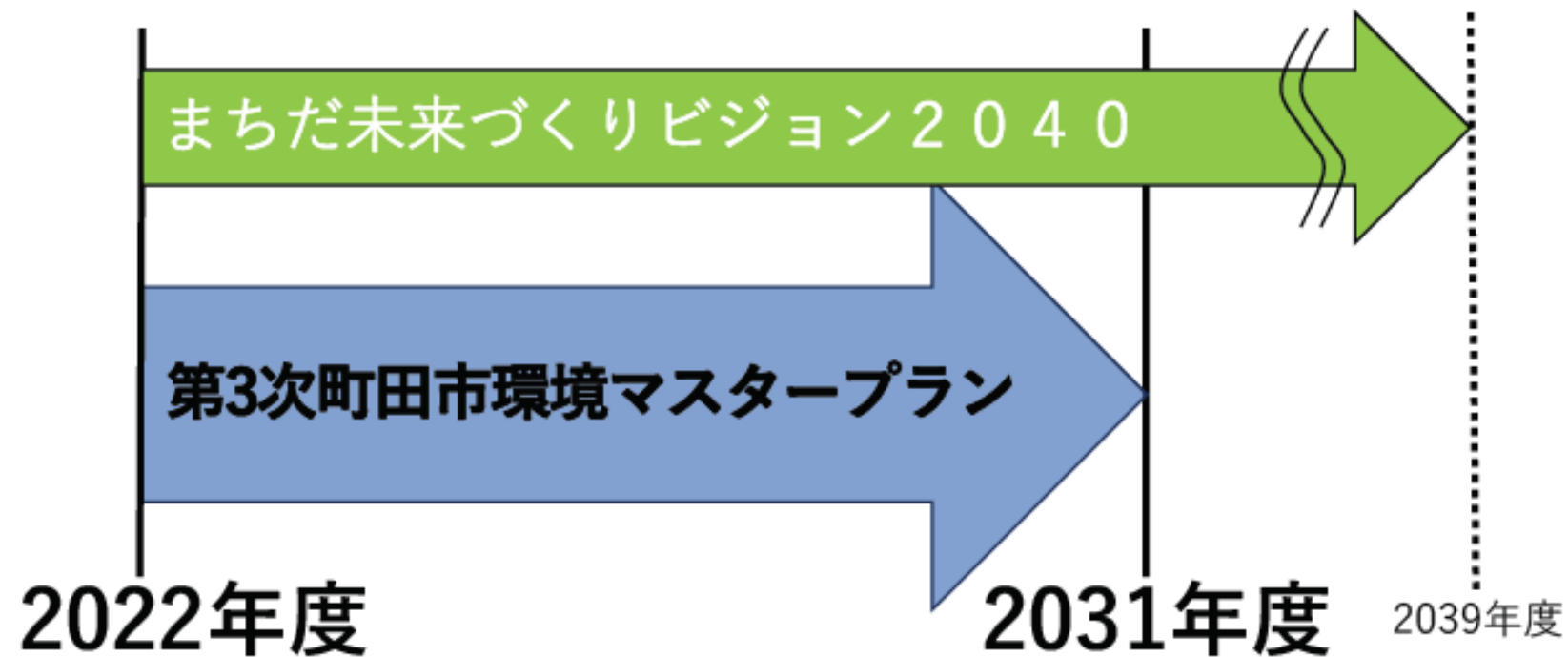
※1 環境基本計画とは、市の責務として、環境施策を総合的かつ計画的に推進するためのもの。

※2 環境行動指針とは、事業者及び市民等が環境負荷の低減に寄与する行動を取るための規範となるもの。

3 計画期間

本計画の期間は、2022年度から2031年度末までの10年間とします。

なお、環境や社会状況の変化に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。



4 計画の対象とする範囲

本計画の対象となる分野と主な要素

分野	主な要素
気候変動	省エネルギー、再生可能エネルギー、気候変動の影響への適応等
自然	谷戸・樹林地・水辺等のみどりや水の保全・活用、生物多様性の保全、農地保全等
都市・歴史・文化	景観、歴史的・文化的環境の保全等
廃棄物	ごみの減量、資源循環利用等
生活環境	大気質、水質、騒音・振動、悪臭等
参加と協働	市民・事業者向けの環境教育・環境学習、多様な主体の協働での環境保全活動等

5 望ましい環境像

「 みんなで将来に受け継ぐ

水とみどり豊かな まちだ 」

- ・ 2031年の町田市の望ましい環境像
- ・ 市民投票を経て決定（市民3,000人に投票をお願い）
- ・ 町田市の特徴である鶴見川、境川、恩田川などの源流域や里山など、恵まれた自然環境を次世代（将来）に受け継いでいく
- ・ 環境像の実現のため、市民・事業者と連携・協働

<望ましい環境像>

みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ

望ましい環境像「みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かな まちだ」を達成した町田市のイメージを示しています。

市内では、太陽光発電や次世代自動車が導入され、さまざまな場面でエネルギーを賢く利用するとともに気候変動への影響に備えています。また、みどりを活用・保全し、生物多様性が守られることにより、さまざまないのちが輝いています。さらに、町田市バイオエネルギーセンターにおける生ごみのバイオガス化・エネルギー利用の推進等が進み、ごみの減量・資源化が徹底されています。

市内は、きれいな大気質や水質を維持し、安全で快適な暮らしを実現しています。こうした取組について、さまざまな主体による協働が進んでいます。

重点プロジェクト1
再生可能エネルギー等の利用拡大

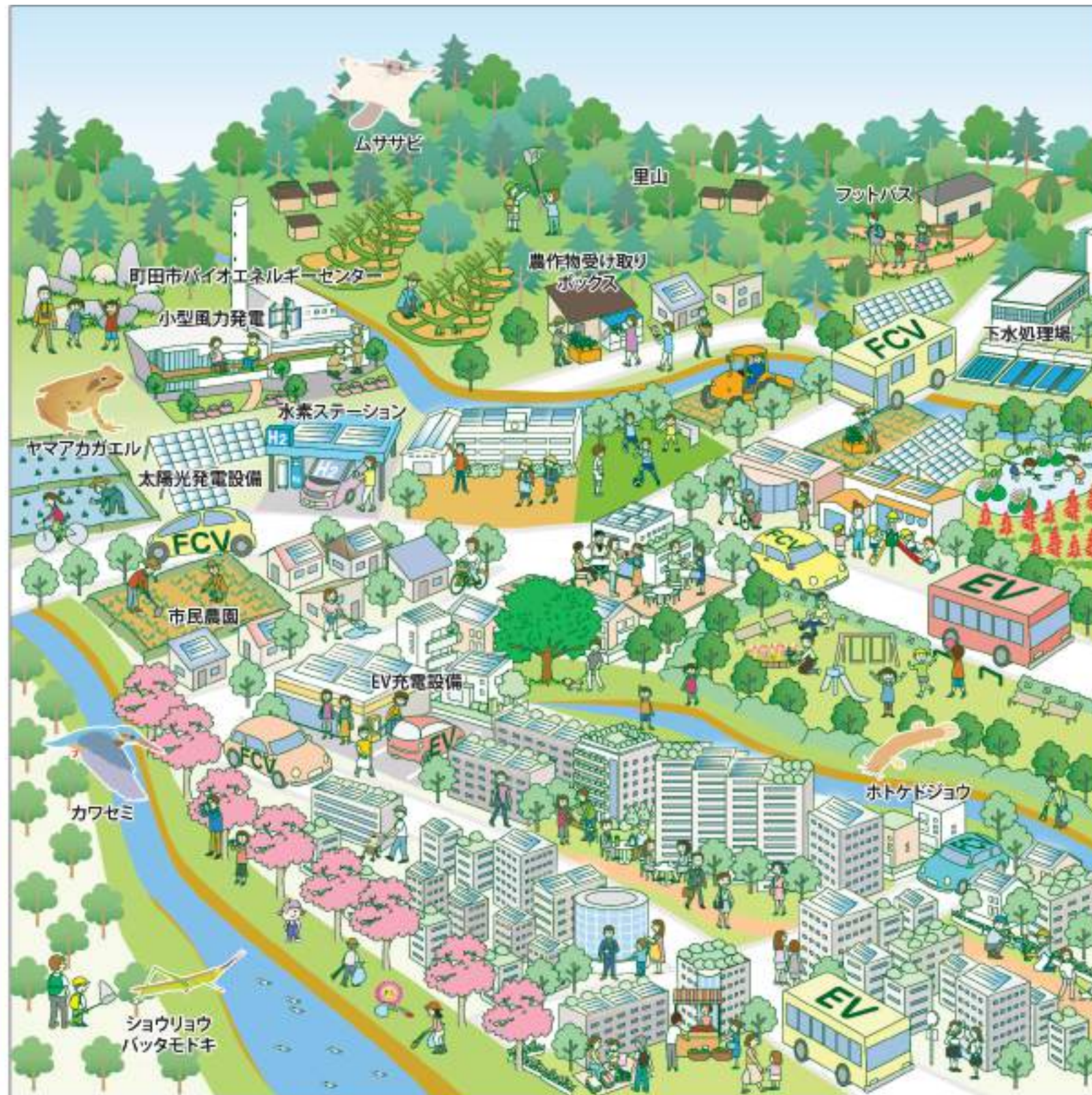


住宅や事業所の屋根に太陽光発電を設置し、発電した電気を利用しています。また、燃料電池を普及させることで、省エネ化や停電時のエネルギー利用が可能となっています。

重点プロジェクト2
次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用



電気自動車や燃料電池自動車といった環境にやさしい自動車が普及しています。また、公共施設等には充電設備を設置することで、様々な場所での充電が可能となっています。



重点プロジェクト3
里山環境の活用と保全



里山環境を活用して、市民農園やフットバスなどの体験ができます。また、里山の保全にも取り組むことで、今ある里山環境を守っています。

重点プロジェクト4
地産地消の推進



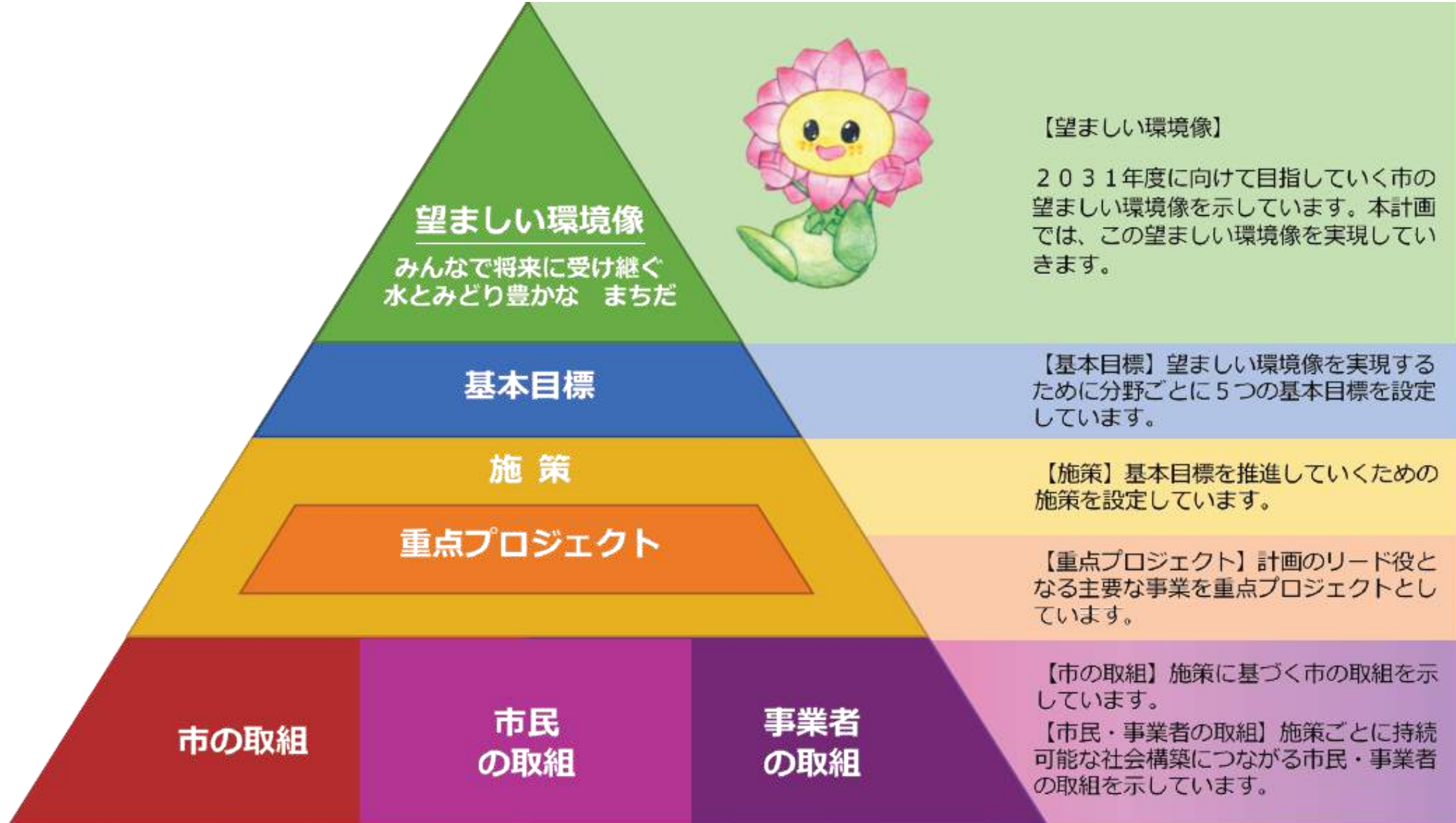
市内で採れた農作物を市内の様々な場所に設置された受け取りボックスを通して手軽に受け取れることで、農作物の地産地消が進んでいます。

重点プロジェクト5
フードドライブによる食品ロスの削減



余っている食品を必要な人に受け渡すフードドライブや飲食店での食べ切りといった取組を実施することで、食品ロスが削減されています。

6 計画の基本構成



7 計画の基本目標及び施策と成果指標

本計画では、望ましい環境像を実現するため、5つの基本目標を環境の大綱として位置づけ、その下に施策を設定しています。各施策には関連する成果指標を設定し進捗を確認します。

また、計画全体をリードしていく「重点プロジェクト」を5つ設定しています。

望ましい環境像	基本目標	施策	重点プロジェクト	成果指標			包含する分野別個別計画
				指標名	基準値	目標値	
みんなで将来に受け継ぐ水とみどり豊かなまちだ	1 エネルギーを賢く利用し、気候変動の影響にも対応するまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 省エネルギーの普及・導入を進めます [2] 再生可能エネルギーの普及・導入を進めます [3] 将来的なゼロカーボンに向けたまちづくりを進めます [4] 身近な気候変動の影響への適応を進めます	重点プロジェクト1 「再生可能エネルギー等の利用拡大」 重点プロジェクト2 「次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用」 重点プロジェクト4 「地産地消の推進」	●市内のエネルギー消費量	13,953TJ ^{*1} (2013年度)	9,365TJ (2030年度) 約33%削減	地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) [1]~[3]
				●家庭のエネルギー消費量(世帯数当たり)	32.8GJ ^{*2} /世帯 (2013年度)	22.8GJ/世帯 (2030年度) 約31%削減	
				●事業者のエネルギー消費量(延床面積当たり)	0.84GJ/m ² (2013年度)	0.57GJ/m ² (2030年度) 約32%削減	生物多様性地域戦略 [1]~[3]
				●市内の再生可能エネルギー導入量(累計)	37,378kW (2019年度)	48,313kW (2030年度) 約29%増加	
				●市内の温室効果ガス排出量	1,489千t-CO ₂ (2013年度)	998千t-CO ₂ (2030年度) 約33%削減	
	2 源流から里山、都市が織りなすいのち輝くまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 生きものの多様性を守ります [2] 水とみどりを守り活用します [3] 歴史的・文化的環境を守ります	重点プロジェクト3 「里山環境の活用と保全」	●市民協働による生きもの調査への参加者数(延べ人数)	4,340人 (2020年度)	10,000人 (2031年度)	
	3 徹底したごみ減量、資源化を進めるまち 関連するSDGsのゴール 	[1] ごみの減量を進めます [2] 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます [3] 社会的課題への対応を強化します	重点プロジェクト5 「フードドライブによる食品ロスの削減」	●生きものに関心のある市民の割合	70% (2020年度)	80% (2031年度)	
	4 安全で快適な暮らしを実現するまち 関連するSDGsのゴール 	[1] 誰もが快適に安心して暮らせる環境を守ります [2] 美しく快適なまちを維持します		●みどりとのふれあいに満足している市民の割合	52% (2020年度)	62% (2031年度)	
	5 環境について、みんなで学び、協働を進めるまち 関連するSDGsのゴール 	[1] さまざまなエコ市民の育成と協働のネットワーク構築を進めます [2] 誰にとってもわかりやすい環境情報を発信します		●水辺とのふれあいに満足している市民の割合	48% (2020年度)	58% (2031年度)	
				●みどり率	45.8% (2018年度)	現状維持 (2031年度)	
				●歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合	29% (2020年度)	39% (2031年度)	
				●1人1日当たりのごみ排出量	768g/人日 (2019年度)	714g/人日 (2030年度)	
				●総資源化率	31% (2019年度)	40% (2030年度)	
				●ごみの焼却による温室効果ガス排出量	約34,000t-CO ₂ (2019年度)	約24,000t-CO ₂ (2030年度)	
				●大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合	78% (2019年度)	現状維持 (2031年度)	
				●居住地の周辺環境(大気、水質、騒音など)に満足している市民の割合	67% (2020年度)	77% (2031年度)	
				●まち並みや景観に満足している市民の割合	43% (2020年度)	53% (2031年度)	
				●環境に配慮した行動を行っている市民の割合	— (2022年度)	基準値から10ポイント増加 (2031年度)	
				●エコ宣言事業者数	93店・事業所 (2020年度)	120店・事業所 (2031年度)	
				●SNS等のフォロワー数	1,138 (2020年度)	10,000 (2031年度)	

*1 TJ: テラ (Tera)・ジュール (Joule) の略号です。テラは10の12乗を意味し、ジュールはエネルギー量の単位を表します。

*2 GJ: ギガ (Giga)・ジュール (Joule) の略号です。ギガは10の9乗を意味します。

*3 EV: 電気自動車 (EV) は電池に電気を充電し、その電気を使い、モーターを回して走る自動車のことです。

*4 FCV: 燃料電池自動車 (FCV) は、燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車のことです。

8 重点プロジェクト

望ましい環境像を実現するため、優先的に取り組み、計画のリード役となる主要な事業を重点プロジェクトとして位置づけました。さらに、重点プロジェクトは、環境課題の解決に大きく貢献する事業だけでなく、社会面、経済面における地域課題に対しても相乗的な効果が期待できる事業として設定しました。

	重点プロジェクト名
重点プロジェクト 1	再生可能エネルギー等の利用拡大
重点プロジェクト 2	次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用
重点プロジェクト 3	里山環境の活用と保全
重点プロジェクト 4	地産地消の推進
重点プロジェクト 5	フードドライブによる食品ロスの削減

イメージ図

再生可能エネルギー等の利用拡大

ロードマップ



2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
スマートシティのモデル構築の可能性検討・実証実験									
				スマートシティのモデル運用					
				成果を活かした市内での再生可能エネルギー等の導入					
				廃棄物発電等の活用方法の調査・検討・実証実験					
				廃棄物発電等の活用					
再生可能エネルギー由来電力の利用方法の調査・検討・実証実験									
			利用制度の設計						
			利用制度の運用						

イメージ図

次世代自動車等の積極的な導入と多面的な活用

ロードマップ



2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
公用車への次世代自動車の導入検討									
		次世代自動車の導入・運用方法等の実証試験							
		公用車への次世代自動車の導入・運用							
		公共施設へ充電設備配置・運用							
		EV・FCV助成金制度の運用							

イメージ図

里山環境の活用と保全

ロードマップ



	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
里山の情報集約・魅力発信										
事業運営の下地づくり、里山環境の整備										
事業者・環境団体等による事業実施										
実施事業の検証（継続・拡充）										

イメージ図

地産地消の推進

ロードマップ

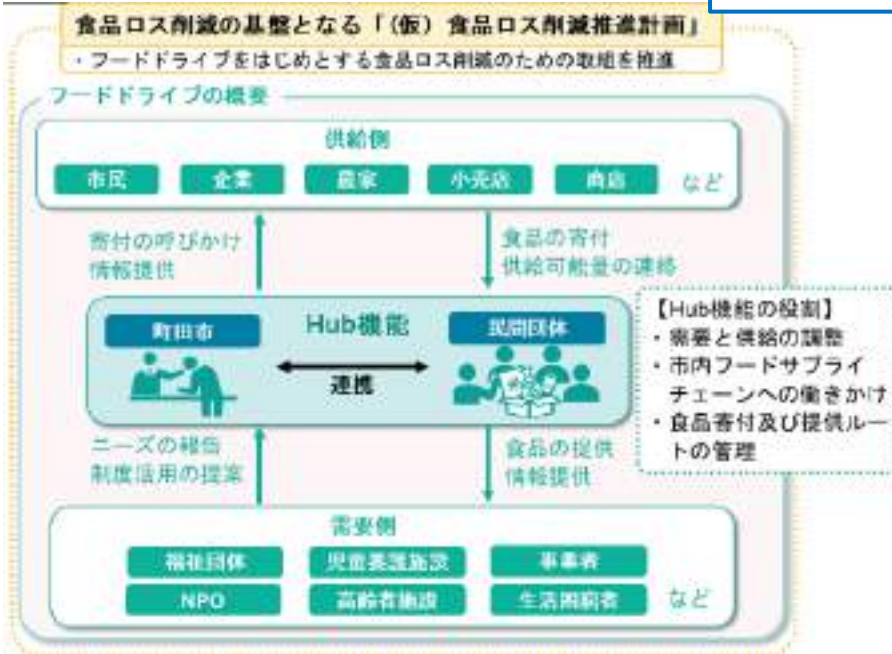


	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
地産地消の情報発信										
受け取りボックス増設										
実施事業の検証（継続・拡充）										
出荷登録者拡充										

イメージ図

フードドライブによる食品ロスの削減

ロードマップ



9 「町田市ゼロカーボンシティ宣言」

・ 2022年1月24日

町田市長が「町田市ゼロカーボンシティ宣言※」

をしました。

※2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする宣言を首長等が宣言した自治体をゼロカーボンシティといいます（とりまとめは環境省）。2030年度までの取組を着実に推進することで脱炭素社会実現の土台を作ります。

